

○答え (①)
(②)

3. 次のそれぞれの文章の()の中には、あとのどのことばを入れたらよいでしょう。よいと思うものの番号に○をつけなさい。

(1) 次の日の夜明け前に、ごんべえは、ぬまの岸に百のわなをしかけました。(), じぶんは、雪にほったあなの中で、うつらうつらしながら、夜の明けるのを待ちました。

答え 1. そして 2. けれども
3. だから

(2) ごんべえは、ありったけの力を出して、つなを引っぱりました。(), 99わのカモの力にはかきません。ごんべえは、つなにつかまったまま、空につりあげられてしまいました。

答え 1. けれども 2. だから
3. ところが

4. 次の文章をよみ、あとの問いに、答えなさい。

① 犬は、家の番をしたり、ひつじや牛の見はりをしたりします。

② また、かりをする人についていって、鳥やけものをさがし出します。

③ 犬はこのように人間の役にたちます。

問い この3つの文のうち、「まとめの文」は、どれでしょう。

(答え の文)

テスト (B)

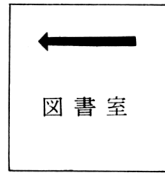
次の文章を読み、問いに、答えなさい。

(1) 記号とことば

学校のろう下で、だれかに、「図書室はどちらですか。」と、きかれたとします。こういうとき、わ

たしたちは、「あちらです。」と言って、その方をさしたり、「このろう下のつき当たりです。」と言ったりして、その人に教えます。

()もし、そのろう下のかべに、図のようなはり紙がしてあったらどうでしょう。その人は、わたしたちが教えないでも、このはり紙を見て、やじるしのさす方へ行くでしょう。

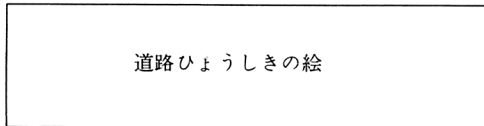


つまり、このやじるしは、図書室へ行くにはどう行けばいいかを表わしています。

このように、物事を表わすしるしを記号といいます。

道路にあるいろいろなひょうしきも、記号の一つです。形や色によって、いろいろな意味を表わしています。

次のページの(1)は、「ここに横だん歩道があるから、道路を走る自動車は、気をつけなさい。また、道路を横切る人は、ここを歩きなさい。」と、わたしたちに教えています。



(2)は、「近くにふみ切りがあるから、注意して通りなさい。」ということを表わしています。(3)は、「自動車は、この道路をまっすぐ行ってもいいし、左へ曲がってもいいが、右へ曲がうてはいけない。」という意味です。また、(4)は、「このへんに自動車を止めておいてはいけない。」という意味です。

記号には、このほかにもいろいろなものがあります。

+ - × ÷ = などは、算数で使われる記号です。

問1 8行めの()の中に、前の文と、つなぐことばを入れるとしたら、つぎのどれがよいでしょう。よいものに○をつけなさい。

1. さて 2. それで 3. けれども
4. たとえば 5. そうして

問2 9行目の「その人」は、だれをさしてい